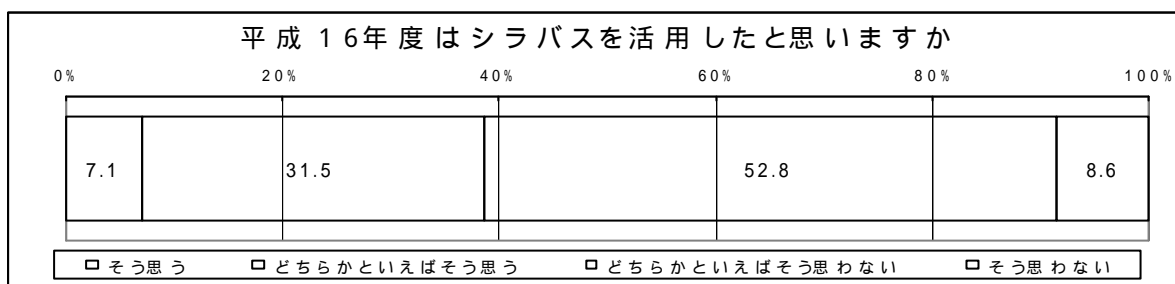


資料 1

シラバスに関するアンケート結果

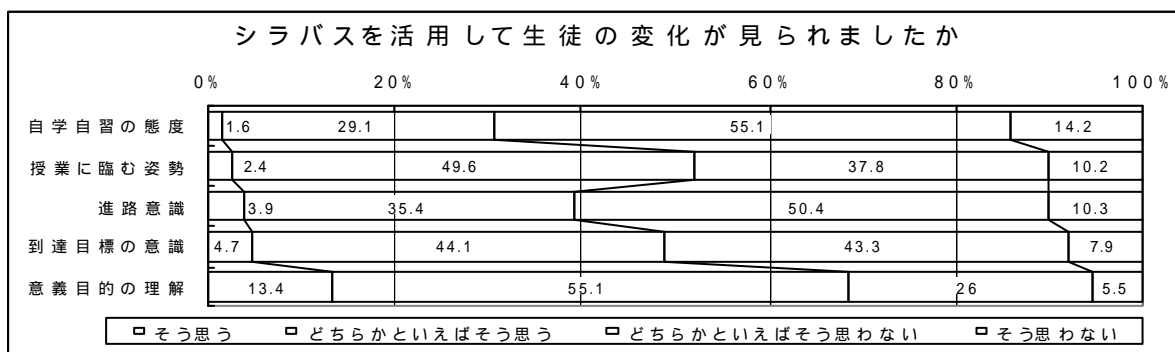
調査時期 平成17年6月
 調査対象校 全県立高等学校
 調査対象者 シラバス担当者 129名

- 1 主担当者からみて、平成16年度のシラバスは活用されたと思われますか。4段階評価の数字に をつけてください。



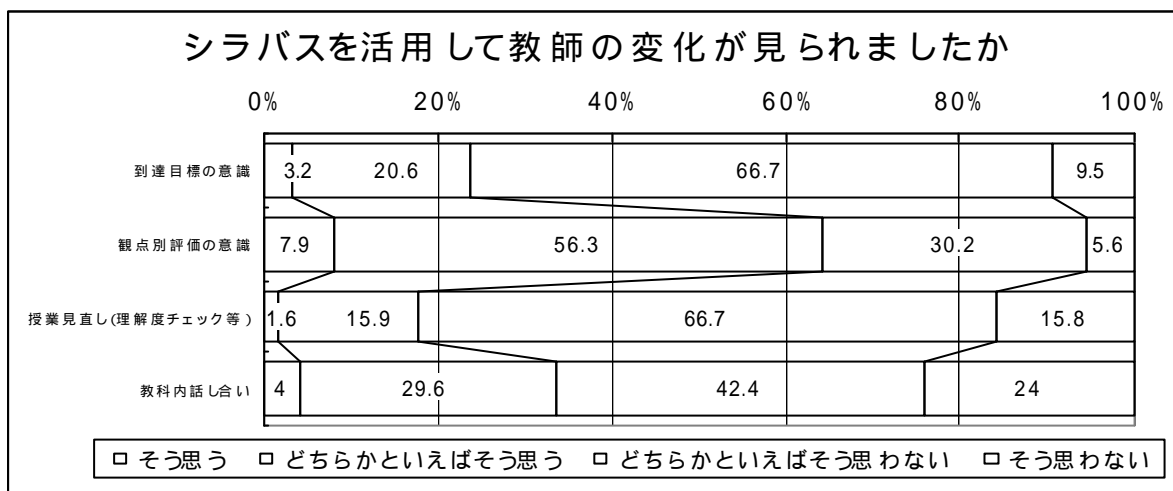
平成16年度に初めてシラバスを作成した学校は約8割です。この質問は初年度にどれだけ活用が進んだかを尋ねた項目です。
 シラバスを活用したと感じている主担当者は半数に届きません。この結果から、全体的にはシラバスを活用した実感はあまり高いとはいえません。そこで、今回のパンフレットではシラバスの活用を進めるために、多くの活用方法を提案しています。

- 2 下記の質問にお答えください。
 (1) 平成16年度にシラバスを活用して、生徒に以下の項目の変化が見られましたか。それぞれについて4段階評価の数字に をつけてください。
- | | |
|------------------------|----------------------|
| 自学自習の態度が身に付いた | 授業に臨む姿勢が積極的になった |
| 進路を意識するようになった | 学習内容の到達目標を意識するようになった |
| 教科・科目の意義や目的に対する理解が深まった | |



1の項目で示しているように、全体的にはまだ活用が進んでいるとは言えない中で、主担当者は意義・目的の理解や授業に臨む姿勢、さらに到達目標の意識などの高まりを感じています。また、自己教育力が求められている今日、自学自習の態度に対しても、一定の変化が認められていることは特筆してよいと考えます。

- 4 下記の質問にお答えください。
- (1) 平成16年度にシラバスを活用して、教師に以下の項目の変化が見られましたか。それぞれについて4段階評価の数字に をつけてください。
- 具体的な到達目標を意識した授業を行うようになった
 - 観点別評価を意識した授業を行うようになった
 - 授業の見直しをする機会が増えた(生徒の理解度チェックなどを利用して)
 - 教科内で話し合う機会が増えた



この質問は、シラバスの特色ある記載項目の活用を通して授業の充実を図る効果や、シラバスの作成・活用を通して教科内の話し合いが進む効果について尋ねた項目です。主担当者は観点別評価の意識が特に高まったと感じています。教師はシラバスの作成時に観点別評価計画を検討する中で授業改善を行うことにもなるでしょう。

- (2) その他に見られた変化があればご記入ください。

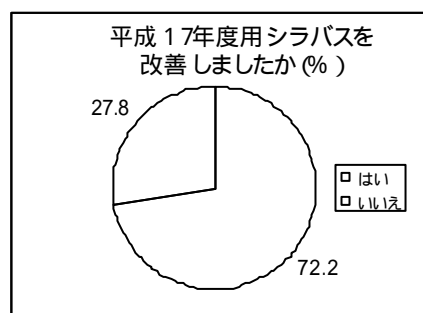
教師の変化(抜粋)

生徒への情報提供の重要性を認識するようになった。
 授業の進度をより計画的に考えるようになった。
 他教科との間で、指導内容の調整を行うことができるようになった。
 同じ教科・科目の職員の連携が深まったと思う。
 より効果的な指導の在り方を求め、年度途中においても単元ごとに自分の授業の点検を行う教員が増えた印象を受ける。
 1年間の授業計画や評価計画が整ってきた。

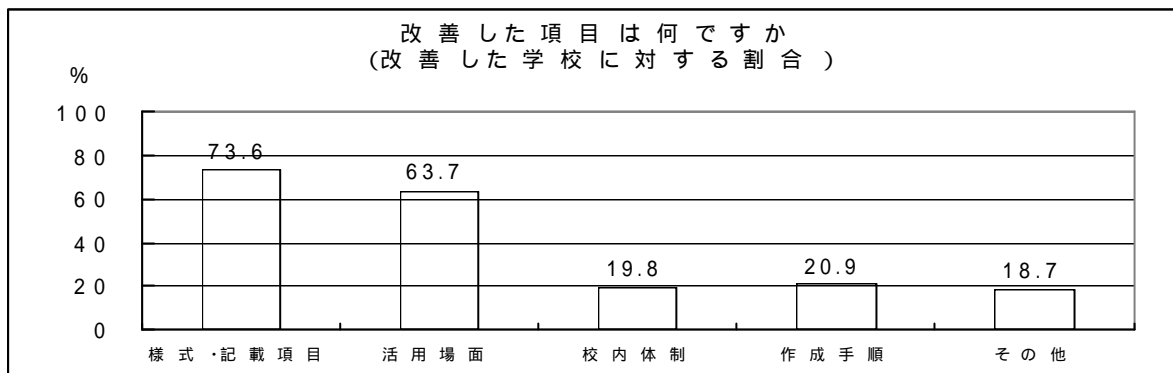
- 5 平成17年度用シラバス作成にあたり、改善しましたか。

はい
 いいえ

を選んだ方は6・7番の質問に、
 を選んだ方は8番の質問にお答え
 ください。



- 6 改善したのはどんな点ですか。該当する項目に具体的にお書きください。
- | | |
|---------|------|
| 様式・記載項目 | 活用場面 |
| 校内体制 | 作成手順 |
| その他 | |



[主な改善内容]

(1) 様式・記載項目の改善 (抜粋)

資格取得や他の教科との関連性を明示し、より効果的に使用できるようにする。

各考査の範囲を記入する欄や得点記入欄を設ける。

到達目標を記入したり、学習の進捗が分かるようにチェック欄を設ける。

考査後や授業後および復習後に記入する自己評価欄を設ける。

記入量が多く、生徒の利用が少ないのでポイントを絞りページ数を減らす。

年間の行事予定、学習の記録、読書の記録を加える。

授業内容に合わせ、問題集の問題番号を記載する。

生徒の学習まとめ欄や、教員の助言欄を設ける。

保護者の感想記入欄を設定し、家庭との連携を図る。

自己評価欄は評定尺度法の活用、または自由記述欄の設定等、適切な記入方法にする。

(2) 活用場面の改善 (抜粋)

授業中の説明だけではなく、家庭訪問時にも活用する。

年度当初、LHRや各授業で詳しく説明する。

年度初めに各学年別に数時間をかけて授業内容の説明をする。特に1年は習熟度の程度に差がつきやすい科目について、十分な時間をかけて予習・復習のやり方について説明をする。

年度当初の授業で説明し、定期考査前の授業でも振り返らせ、再確認させる。年間を通じて授業時や単元の前後に使う。

定期考査前にはLHR時に目標の確認や学習計画立案の時間を取る。

成績や評価の推移を記録させたり、ファイルに考査問題をとじさせて整理させる。

考查前後や学期末に自己評価させ、学習の到達度や目標を意識させた上で、授業を受けさせる。
教科書やノートにシラバスを貼付させ、学習計画を立てやすいようにする。
「総合的な学習の時間」の中で活用する。

(3) 校内体制の改善（抜粋）

授業の進度等、担当者間の打合せを密にするようになった。
教科主任者会や教科会議・学科会議で協議の場をもち、次年度のシラバスの様式や活用方法などについて話し合う。
学力向上のために全職員でシラバスの作成を行った。
各学年とも進路の手引とシラバスを併せて、進路指導のLHRで使用できるようにした。
授業評価と併せて使う。
座学だけではなく、実技指導中心の授業でも使ってもらう。
シラバス担当者の人数を増やすことで充実したシラバスができた。

(4) 作成手順の改善（抜粋）

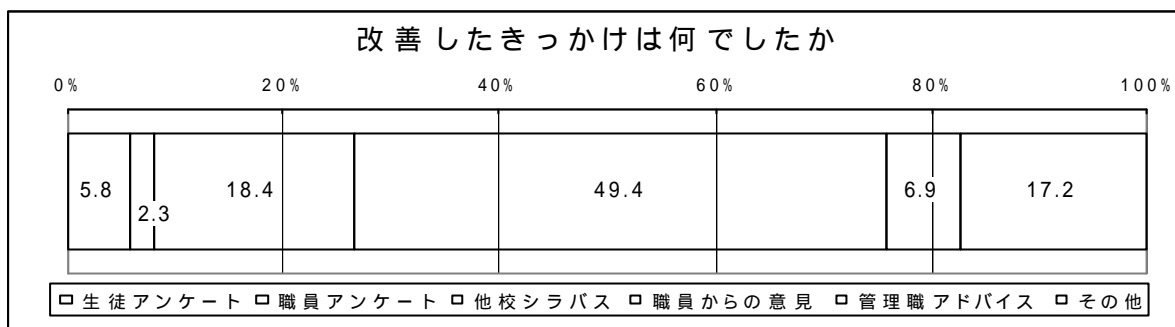
前年度版の内容や進度を見直し、計画的に実施できるよう教科内でチェックをする。
最終的なシラバスは新年度に科目担当者決定後改めて見直す。
3月には新2・3年生に配付できる作成計画にしている。
検討時間や見直しの時間を確保するため早めの作成提案をする。
次年度の教科書が決定する夏休みから作成に入る。

(5) その他（抜粋）

予定の変更に対してはシラバスを差し替える。
自宅学習記録帳とシラバスを併せる。
3年間の行事予定表を入れた。
教科シラバスと資格シラバスを併せた。
学年別のシラバスをクラスに数冊配付した。生徒へは授業担当者から配付し、教科書に貼り付けさせた。

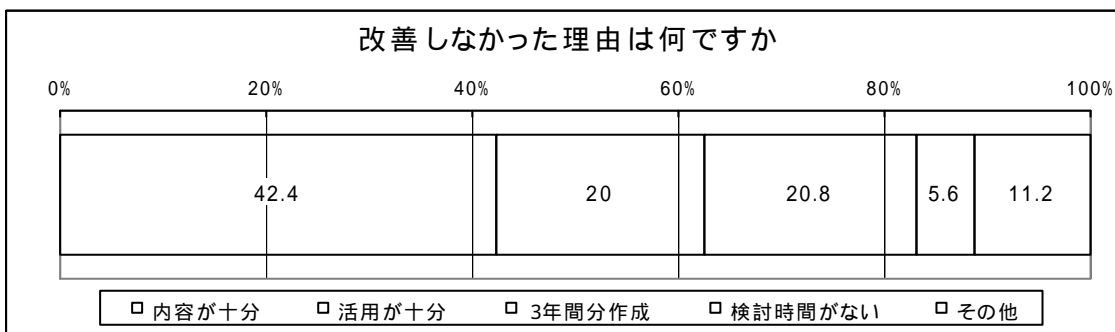
平成17年度のシラバスの作成にあたっては多くの学校が改善を図っています。改善された項目は様式・記載項目や活用場面が多くなっています。特に自由記述欄に記入していただいた主な改善内容は各学校にとっても参考になるでしょう。

- 7 改善したきっかけは何でしたか。一つ選んでください。
- | | |
|-------------|-------------|
| 生徒へのアンケート結果 | 職員へのアンケート結果 |
| 他校のシラバス | 職員からの意見 |
| 管理職からのアドバイス | その他 |



ほとんどの学校が初めてシラバスの作成・活用を行った16年度の反省を踏まえ、17年度へ向けてどう取り組んだかを尋ねた項目です。「職員からの意見」が半数になっており、校内でシラバスの改善に関する意見交換が多かったと言えます。また、生徒の活用を促進するために、生徒にアンケートを取って、その結果を改善に生かす学校もありました。

- 8 改善しなかった理由は何ですか。一つ選んでください。
- | | |
|--------------------|------------------|
| 現在のシラバスの内容で十分だから | 生徒が現在十分活用しているから |
| 3年間分のシラバスを作成しているから | 改善を検討する時間がなかったから |
| その他 | |



平成15年度以前から明確な目的意識をもってシラバスを作成してきた学校などは、すでに特色ある記載項目を設定し、活用も進んでいると考えられます。しかし、改善が進まなかった学校の中には、まだ、活用上の課題があることも感じます。